

平成23年度事業報告ならびに収支決算報告

平成23年4月1日から 平成23年10月6日まで

本事業報告ならびに収支決算報告は、特例民法法人ニューテクノロジー振興財団の表記期間に関するものである。

平成23年12月

公益財団法人ニューテクノロジー振興財団

平成23年度事業報告

(平成23年4月1日～平成23年10月6日)

平成23年度は、当財団の設立時からの支援体制の厳しい状況変化の中で、自立的な事業運営を目指すべく、公益法人制度改革の中で敢えて「公益財団法人」への移行を目指し、前年度の3月の理事会・評議員会にてその基本方針決定と必要な一部の決議を行うと共に、今年度6月6日(月)の理事会・評議員会では移行に必要となる新定款等全ての事項について決議を行い、直ちに6月8日(水)に総理府公益認定等委員会に対して移行申請を行いました。

その後書式上で僅かな修正等は有りましたが、審査は順調に進み9月28日(水)には正式な移行認定を受け、それに基づいて10月7日(金)に旧特例民法法人を一旦解散、同日付にて公益財団法人ニューテクノロジー振興財団として登記を行い、正式に新たな一步を踏み出すことが出来ました。これもひとえに特例民法法人としての当財団の役員等の皆さまをはじめ、関係の皆さま方のご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

お蔭様で、当財団の中心事業で有ります「つくばチャレンジ」や「マイクロマウス」についても、平成23年は公益財団法人の事業として無事に開催する体制が実現いたしました。

特例民法法人としてのニューテクノロジー振興財団の最終年度となります平成23年度は年度末を待たず、年度途中の移行とする事にしたため、事業の大半は11月の開催に向けて準備中では有りますが、共同主催者でありますつくば市は勿論の事、両事業の多くの委員の先生方のご協力をはじめとして順調に進んでおります。

特にマイクロマウスにおいては参加の学生を中心とするボランティア体制(通称：マイクロマウス・サポーターズ)が出来つつあり、今後の運営の主体として期待している所であります。

今後とも、公益財団法人となった新たな体制にも引き続きご支援ご協力を賜りたく、改めてお願いいたします。

1. 科学技術に関する普及・助成事業

(1) メカトロニクス技術・ロボット技術の普及活動と助成事業

① マイクロマウス2011の開催準備

(つくばチャレンジ2011/第32回全日本マイクロマウス大会)

「つくばチャレンジ」(REAL WORLD ROBOT CHALLENGE)については、今年度開催を最終とする前提で、エレベータ搭乗などの高度な技術課題を更に加えながら4月より6月末で参加募集を行った。

・参加登録総数：69チーム

7月30日(土)の第一回実験走行以来、既に9月には3日(土)、23日(金・祝)の2回と合わせて3回の実験走行を実施し、本走行までに8回を実施予定。

同時に、継続開催してきた全日本マイクロマウス大会開催に関する詳細発表を行うと同時に、参加登録受付を9月1日に開始した。(参加登録締め切り10月15日)

つくばチャレンジ2011

・会場：つくばエキスポセンターを起点にした1.4km強の課題コース

・参加登録総数：69チーム

トライアル走行(11月15日)500m

ファイナル走行(11月16日)1.4km

第32回全日本マイクロマウス大会

・会場：つくばカピオ

・マイクロマウス(ハーフサイズ)競技

・マイクロマウスクラシック競技

・ロボトレース競技

・マイクロクリッパー競技(今年度を最終大会とする予定)

② マイクロマウス地区大会等の開催と助成

昨年同様、下記の地区大会等を共催すると共に助成を行った。

7月17日(日)関西地区大会 京都コンピュータ学院

8月7日(日)金沢草の根大会 金沢工業高等専門学校

9月4日(日)中部初級者大会 名古屋工学院専門学校

9月25日(日)東日本地区大会 東京科学技術館

10月2日(日)北陸信越地区大会 新潟県立自然科学館

※以下開催予定

10月16日(日)東北地区大会 山形県長井市(財)置賜地場産業振興センター

10月23日(日)中部地区大会 名古屋工学院専門学校

10月30日(日)九州地区大会 熊本工業高等専門学校

11月6日(日)全日本学生大会 芝浦工業大学豊洲校舎

③ ロボスプリント競技の普及

ロボスプリント狭山大会（8月7日（日）：狭山市立博物館）他、マイクロマウス各地区大会でも競技会を実施し、普及活動を図った。

2. 科学技術に関する情報交流・国際交流

(1) 「International Conference on Intelligent Robots and Systems 2011」

（知能ロボットとシステムに関する国際会議 2011：略称 IROS2011）

（9月26日（月）～9月30日（金）：米国：サンフランシスコ）

共催者としての支援を行うと共に、IROS2011投稿論文より、エンターテインメントロボットに関連する論文の中から、最も優れた論文に対し、NTF賞の授賞を実施。

※IROS2011プログラム委員会より8件の論文が推薦され、予め当財団の審査委員会（委員長：福田敏男名古屋大学教授）にて事前査読を行い、4件のファイナリストを選出した上で、現地の発表を最終審査し下記の最優秀論文を決定し、NTF賞を授与した。

授賞論文：First Leaps Toward Jumping Microrobots

著者：Sarah Bergbreiter, Aaron P. Gerratt, and Wayne A. Churaman

以 上